

長男会中心に七十名集う

高校七回卒 佐藤 正志

同窓会は、昭和四十九年八月十八日の、昭和の刀物会館で開きました。参加者は先生、が六名、卒業生は男女半々で約六十名が出席し、非常に盛大に行われました。この第一回の同窓会を企画したのは、Aコースの有志十名で結成して「長男会」でした。同窓会をやるという事で開催しました。学校卒業後、初めて会う方も、数名参加され、懐かしさで胸がいっぱいになりました。先生方の中には、私達を最後で、教員をやめられた平田三先生などは、挨拶の時に、感動し、涙ながら話されたことは、今でも忘れられません。各組毎に、先生をまじえて、学生時代の思い出話や卒業後のこと、また色々歌など唄って、大変楽しく、愉快なひとときをすごしました。

第二回目の同窓会は、今年一月十六日に、魚国で行ないました。今回は、長男会が企画しました。参加者は、前回よりも多く、先生は三名（安田正、安田富士子、古田之彦先生）でしたが、卒業生は七十名が集まりました。前回と違って、関市内の方よりも遠方の方が、多数参加していたので、いかに同窓会らしい雰囲気でした。



非常に懐かしがっていましたが、同窓会を開催することは、なかなか困難ですが、みんなの喜ぶ顔を見ると、苦勞も吹っ飛びます。三年毎に同窓会を開くことになり、再会を約して、楽しい一日を終りました。

進路状況と今後の課題

教諭 斎藤 聡

新学区制実施後、最初の卒業生を送る事になった今年度の進路指導の一年間を振り返って今後に残された問題点を探ってみよう。新学区制施行によって本校における進路特に大学受験の内容にどのような変化を生じたかについては一応興味を持たれるところであるが、下記の表を参照ねがいたい。昭和五十年年度と今年とを進路希望別に、おなじ十二月末現在の第一希望から拾ったものである。表に示されているように量的には前年度とほとんど変っていないという事が言えようである。しかし質的に見ると進路希望別に、進路希望が大学受験に集中している事、また、私立大学の有名校や国立大に挑戦する諸君がかなり増加した事は合否は別としてもその気配は買ってやれないものである。しかし一方従前と変らない大学を志望する者もむしろ多くなり広い範囲にわたって分布しており、これらの指導のあり方に多くの問題を含んでいると言えよう。

部活動状況

水泳 東海高校選手権予選 女子2位
卓球 中濃総体男子3位
中濃総体男女共1位
国体出場 船戸千代美 (本年度県新人種目全勝)
剣道 全国高校総体県予選 個人(石丸修)2位
団体大会出場
団体女子3位
東海大会出場

注目すると共にそれに対する準備を固めていかなくてはならない。三番目に現在の本校生徒全般の進路状況の反省についてふれたい。一部の生徒を除いてはあまりにも勉強不足の状況であると言わざるを得ない。「笛吹け」とも囁かすと言おうか、大学への進学希望を胸に抱いている諸君にしてお粗末としか言いようのない者が多いのが現状であり、その気構え、全体のムードづくりに真剣な勉強態度を強調していききたい。

最後にそれぞれの個性、能力、適性に合致した正しい進路の選択について一言。大学へ、しかも一流と言われる大学に入学するのみが進路とはいえない面もある。大学進学浪人の多い昨今であり、中途で学業を放棄する学生も多いうえに、無理な進路の選択によって適性の境界を越え、あまり適切な進路をあまりなかった例であらう。各種学校の専修学校への昇格など直接間接に合う技術の習得も一つの進路であり、さらに年々減少しつつある就職についてもこの

編集後記

第五号が出来ましたので、おとけします。本号では、本会の活動としての募金活動が目標を達したため、会長、学校長の挨拶と学校の近況をお知らせすると共に、恩師の近況、同窓生の寄稿をいただきました。いつもながら、多忙な中で依頼した原稿を、心よくお寄せ下さいました方々には厚くお礼申し上げます。本会報をお読みになつての感想やいろいろな体験、クラス会での様子などな投稿下さい。事務局の方へご投稿下さい。本会の活動が益々活発になり、会員諸氏の友情が一層深まることを祈ります。



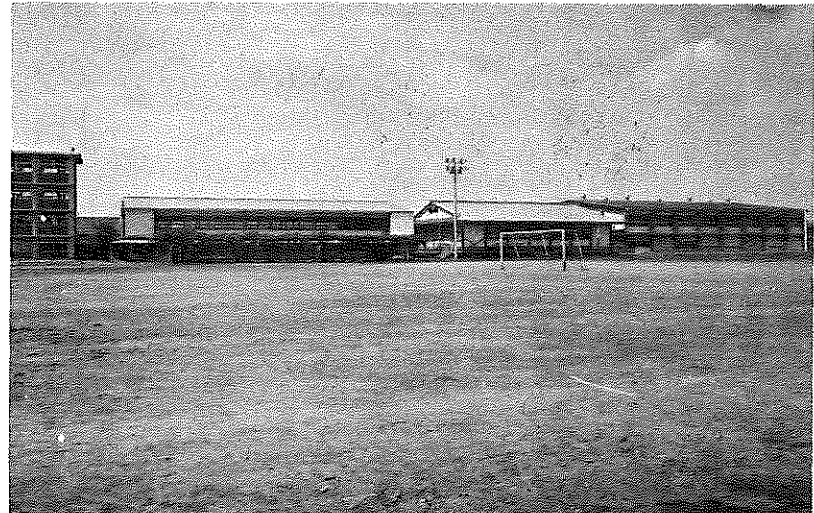
発行所 岐阜県立高等学校同窓会会長大塚暉夫
印刷所 ムトウブリント
電話 2-3155

おれのことば

同窓会長 大塚暉夫

同窓生の皆さんには、益々御健勝のことと御慶び申し上げます。日頃は、会の運営のためにいろいろと、御協力を賜りまことにありがとうございます。

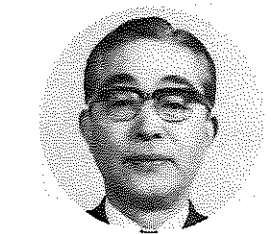
私達の母校が、昭和四十七年度からはじめられた、永久建築化の改築工事が、昨年五月に竣工した新体育館建設をもって、一段くしました。その折に、同窓会として、グラウンドピアノを寄贈することと決ましまして、皆様方に募金の御協力を御願いたしましたところ、私達役員の方不足や、不手際で前半大変心配いたしました。最終には目標額百五十万円を越え、百六十六万五千円となり、ピアノと、ピアノ運搬費を寄贈することができました。その間、幹事の皆さん、委員の皆さんには多忙の中を、東奔西走していただき、また、会員の皆様には、心よく御賛同いただき、ここに実を結びましたことを衷心よりお礼申し上げます。



校庭南より写す 左より 本館・第2体育館・武道館・第1体育館(新築)

られ、時折訪ずれる私共の耳をもなごませてくれています。近づく、卒業、入学には送ります。

られ、迎えられる幾多の後輩達の胸に希望と、感慨のメモリーをかなで、くれることでしょう。

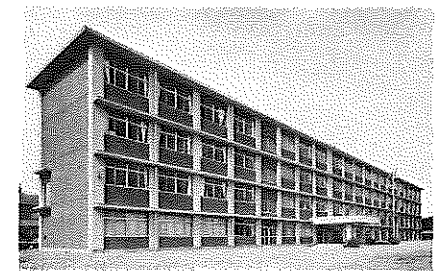


「同窓会だより」発刊に寄せて

学校長 佐合久一郎

の卒業生を送る事になり、また、伝統ある同窓会の生徒としての自覚を持ち、三年間の修業にいとそだた三十五名の入部と、必ず先輩の皆さんの期待に応え、進路に就いて各自全力を尽くして頑張ってくれることと願います。卒業生に続く「一」年生も、学習に落ち着きと熱意を見せ、毎日の部活動に体を鍛え、関高校の生徒として恥じない人間形成に精進しております。人間は誰にでも孤独に生きることはできません。自分が生きるためには、他人の協力や奉仕がなければ生きることができません。また、自分の他人に対する協力を奉仕がなければ社会生活はできません。人間は、風を揺れる草も知れませんが、群生する草の根が、沼地の中で悪条件を克服して、力強く四方に向かつて蕃殖するように、集団の力

は、想像も及ばないような成果を発揮するものであります。学校でいいますと、クラスの、学年の、また学校全体の、集団的意志や意欲が、全体としての生活を力強く盛り上げると同時に、個人の学習や生活にどれだけの鼓舞し、助成するか知れません。また、伝統が生徒に及ぼす精神的影響も偉大であると思えます。伝統は、絶えず書き改められてこそ若々しい生氣を帯び、発展を約束することができるとも知れませんが、とにかく伝統の重みは、現在学校に学ぶ生徒諸君にとって、無言の励ましとして身に迫るものがあると思えます。今後とも有形無形の伝統の力をお加えいただきたいと存じます。学校の施設設備も、特別教室棟の改築を済まして、立派に整備され、学園らしい清潔で落ち着いた雰囲気を持つ



大塚暉夫

寄附金合計

追加報告

先に同窓会通信(昭51年12月発行)でご報告しましたが、その後、寄附金の申込みをいただきましたので、追加報告します。

高校三回 四〇,〇〇〇円
" 十四回 一,〇〇〇円

収入の部
一、六六二,〇〇〇円
支出の部
一、五八六,二九五円
差引残高(積立金)へ繰入 七五,七〇五円

総会のお知らせ

定期総会を左記の要領で開催いたします。多数のご出席をお願いいたします。

同窓会各員各位
一、定期総会
日時 昭和52年5月15日(日)
場所 関高等学校
議題 (1)事業報告
(2)会計報告
(3)新年度行事計画
(4)その他

今日、此の頃

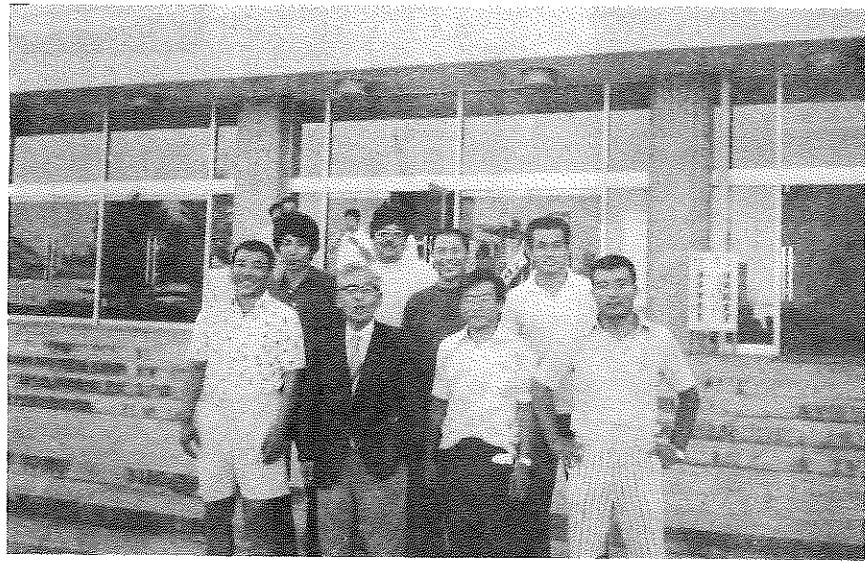
鈴木輝雄先生

開高の、四回から十回頃までの卒業生で、美濃市に嫁いでいらした方たちのグループが、年に一回、昼御飯を戴きながらのおしゃべりの会を催していられます。四回卒の福井節子(旧姓岡田)平田和子(旧姓村橋)五回卒の後藤利恵子(旧姓下条)遠藤保子(旧姓早川)山田照子(旧姓山田)古田すゑ(旧姓清水)六回卒の庄加喜久枝(旧姓上野)七回卒の服部昌子(旧姓平田)八回卒の東山要子(旧姓和座)十回卒の川島牧子(旧姓山田)山口正子(旧姓平田)の皆さんに、岡百合子先生(旧姓小森)が加わってのメンバーで、毎年この会合にお招きを戴いてます。年に一度の催しに、私の事を思い出して戴くだけでも、まことに有難い事でございます。

恩師拝謁

今年、一月二十七日に開市の「植野屋」さんにお招き戴きました。嫁いで十数年、今日此の頃は、子供さん達の勉強や学校の事が話題の中心で、最後は高校時代の思い出に花が咲きます。縁があつて、同じ町に嫁いで来た方達だめながら、ますます友情を深めていらつしやる姿を、まことに美しいものに思ひます。今では、私にとつても、待ち遠しい、一週間の絶対安眠

と面会謝絶、そして再起不能を宣告されましたが、この時、これらのOB諸君が連日連夜私の宅に詰め切り、且ての教え子のお嬢さん達が、私の枕辺に付き切りで看病してくれました。その間、数多くの皆さんにお見舞に來て戴き、いろいろはげましの言葉を戴いて、お陰様ですっかり元氣を回復いたしました。従前通り、名古屋で週四日、岐阜で週二日の講義をもつて居ります。私は、当年六十八才になりました。親無し子無し兄弟な



竹生島

中村保先生

昨夏、武高女十一回生の石木久子さんから塾中見舞をもらい、末尾に「毎日、孫の守ばかりですが、私達も還暦で、そろそろ信心どころが生じ、西国巡礼をはじめました。此頃中も、二、三のお友達と谷汲へ行つて来ました」と書き添えてあつた。

私は其返事に、私は、八十ハ所は、一氣に廻つたが、西国巡礼は、前々から旅行する毎に集印帳を持参してお参りを兼ね、もう竹生島だけ残つていますが、八月末に行くつもりです」と書き添えて置いた。

二、三日すると、久子さんから電話で、「私達も竹生島へ行き度いがお供願えぬか」との事、「一緒に行けたら私の方こそ結構です、但しあまり範囲を拡げなされるなよ」と言つて置いたが、出発迄に同行者が十一人に及び、賑やかな学生時代の修学旅行再現になった。



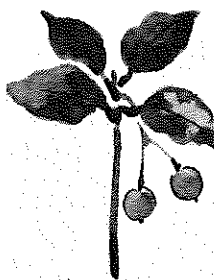
西国札所二、三ヶ寺と織物会館を廻り、最後に東映太奏映画村を訪れた。普通の旅行日程には這入らない処の見物が出来てよかった。今年になつて、在名古屋の十五回生益田さんが、洛南へ友人二、三と小旅行するが同行してくれ」と言つて来ているから、三月中に出かける。桃山城、御陵、清水八幡宮など。丁度このごろ

ヨーロッパ花の旅

高女一回卒 野々山一枝

陽春の五月、私は安達流子先生を団長とする「ヨーロッパ花の旅」に参加して九ヶ国十二都市の花と文化の個性を訪ねてまいりました。少しでも皆様のお役に立てばと、ここに想い出の一幕を述べさせていただきます。

同窓生寄稿



ザ、ミロの「ピーナス」、ミレーの「晩鐘」など、名作にふれたよるこびで一杯でした。翌日モンマルトルの丘に行きました。昔から芸術家詩人のたまり場である、私もフランス人に絵を求め満足いたしました。昼食にはじめて大阪屋の日本料理でひと息舌鼓を打ちました。西ドイツ(フランクフルト)は汽車八時間の旅で、緑の美しい農村風景、牧場の牛の群、エニシダ、日本的な菜の花の黄色に充分旅情を味わいました。建物は、ほとんど近代的石造で詩人有名な、ゲーテの生家は、ドイツの上流の典型的建

山々、果ては美しい湖畔、さうが世界の別荘地の名刺ピツタリ。アルプスの有名なエーデルワイスの花を思い浮べながら、アルピニストならずとも胸躍らせる連峰の眺め豊かなチロル地方の、ドライブの旅を終日つづけた。次に水の都、ベニスでは夜のゴンドラ、昼の運河めぐり。皆少し日焼けした顔に、思わずネッカーチーフをかぶりまし



此の頃感ずること

高校六回卒 西村 求

私は大体金山線を利用してバス通勤している、朝晩のラッシュ時は、いつも高校生と一緒にいる。彼らの大半は旭ヶ丘バス停の乗降客、すなわち後輩である開高生である。彼らの多くは津保谷から乗ってくるのであろうか、一〇〇%近くが座っている。例え近くに老人が立っているでも、私は今まで彼らが席を譲ったことを見たことがない。私はこんな光景をみる度に、情けない思ひがしてならない。近時、若者の非行や、道徳心の低下に嘆く人は多い。この原因は何か……など敢えて問うことはしないけれど、教育制度の根幹に大きな欠陥があるような気がしてならない。幼時から学業に追われ、塾で

オランダに着いて、世界一の植物園 キューケンホフのチューリップ・フラワースhowの花の精によいしれて疲れを忘れてしましました。翌日、木靴の民族衣装、風車など見学。紀元前の古い煉瓦の建物。その傍にはマロニエの大木に一面の青苔がその歴史を物語っていて、一瞬古代世界に誘い込まれた様な気がしました。社会保障世界一。さすが老夫婦達はのんびりと森で遊んでいました。又アンネ・フランクの隠家遺品を見た時、十七才の少女の非運に胸打たれました。デンマークのクローンホル城はハムレットであり、その海岸線にはアンデルセ



築でした。スイス、オーストリヤは、いづれも同じ様な国柄、ドイツ人のドライバークレマがよくガイドをつとめてくれました。目前に迫ってくるアルプスの白雪皚皚たる男性的なサニビエトロ大寺院、天才



在名古屋 安達流師範